HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	故　松岡孝兒博士略歴
Citation	北海道大學　經濟學研究, 12, 127-136
Issue Date	1957
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/31037
Type	departmental bulletin paper
File Information	12_P127-136.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

故 松岡孝兒博士略歴

明治二十六年　十一月十六日　北海道古宇郡泊村に生る
三十九年　四月　旭川中学校入学
四十年　七月　仙台陸軍幼年学校入学
大正三年　五月　陸軍士官学校卒業
十二月　陸軍歩兵少尉
四年　十月　依願休職
五年　四月　東京外国語学校仏語科入学
七年　三月　同校卒業
八年　九月　京都帝国大学経済学部選科入学
十年　四月　〃　本科入学
十二年　三月　経済学士試験合格
五月　京都帝国大学経済学部助手
十四年　十一月　東原君代と結婚
昭和三年　四月　京都帝国大学経済学部講師

故　松岡孝児博士略歴

昭和五年　一月　妻君代死去
九　年　二月　京都帝国大学助教授
十一年　九―十月　満洲国及び中華民国へ出張
十二年　十月　応　召
十三年　九月　陸軍歩兵中尉
十四年　二月　著書「金替為本位制の研究」により経済学博士の学位を受く
十一月　召集解除
十五年　一月　京都帝国大学教授
十六年　一―三月　中華民国へ出張
十二月　泰国及び仏領印度支那へ出張
二十一年　五月　依願免本官
九月　公職不適格者に指定さる
二十五年　十月　〃　の指定を解除さる
二十六年　四月　丸紅株式会社調査事務嘱託
二十八年　三月　同社嘱託辞任
七月　北海道大学教授
三十一年　十二月十四日　京都大学附属病院において死去、享年六十三。

故　松岡孝兒博士著書論文目錄

(1)　著　書

ラコムブ著　景気予測法の研究	南北書院	昭　六・五・二八
金問題研究	有斐閣	昭　八・一二・七
金為替本位制の研究	日本評論社	昭一一・六・二五
アフタリョン著　貨幣・物価・為替論	有斐閣	昭一二・八・三一
Etalon de change or au Japon	日仏協会	昭一四・一・一
仏領印度支那の幣制と金融事情	東亜研究所	昭一七・一二・七
アンドレ・ピアティエ著　戦争経済学	三省堂	昭一八・七・一〇
Les grands penseurs français ——Saint-Simon, Fourrier, Louis Blanc——　編集	白水社	昭二六・四・一五
ジャン・フーラスチエ著　一九六〇年の世界	白水社	昭二七・二・一〇
アルフレット・ソーヴィー著　経済観測	白水社	昭二八・九・五
シャルル・ロープカン著　岡田徳一共訳　仏印経済発展論	有斐閣	昭三〇・九・三〇
アンドレ・トウーゼー著　印度支那貨幣制度の研究	有斐閣	昭三一・五・一

(2)　論　文

	掲載誌	巻号	刊行年月
パレト氏を憶う	経済論叢	一八・六	大一三・六
パンタレオニ氏業績の回顧	〃	二一・一	大一四・一一
合衆国に於ける労働銀行に就いて	〃	二二・三	大一五・三
伊太利のリラ貨引上策について	〃	二四・三	昭二・三
パンタレオニ氏と経済学基礎概念	〃	二四・四	四
貨幣数量説への一考察	〃	二七・二	昭三・八
ベルギー国立銀行制度改正に就いて	〃	二七・三	九
イタリヤに於ける貯蓄銀行制度改正に就いて	〃	二七・五	一一
フランスの新貨幣制度に就いて	〃	二八・四	昭四・四
ギリシヤの新発券銀行に就いて	〃	二八・五	五
輓近フランス経済学界の傾向	〃	二九・一	七
フランスに於ける庶民銀行に就いて	〃	三〇・二	昭五・二
フランスに於ける景気変動予測論	〃	三二・一	昭六・一
金為替準備に就いて	〃	三二・三	三
金を繞ぐる英仏の論争	経営と経済	一・六	六
金問題批判	経済論叢	三三・二	八
金数量説に就いて（上）	〃	三三・四	一〇

金数量説に就いて（下）	〃	三三・五	一一	
金問題と国際連盟	経営と経済	二・五	一一	
英国金融資本家の見たる不況原因	〃	二・六	一二	
景気変動の型より見たる独逸の失業	経済論叢	三三・六	一二	
貨幣価値安定より見たるクレヂットに就いて	〃	三四・一	昭七・一	
歴史的発展に於いて見たる世界不況	〃	三四・二	二	
世界不況対策としての国際貸付銀行案	〃	三四・三	三	
金数量説の発展に就いて	〃	三五・一	七	
中央銀行の独立性より見たる政府貸上金に就いて	〃	三五・三	九	
中央銀行の独立性に就いて	〃	三五・四	一〇	
金為替準備への再吟味	〃	三五・五	一一	
中央銀行役割の発展に就いて	〃	三六・一	昭八・一	
中央銀行協力の発展に就いて	〃	三六・三	三	
世界大戦前に於ける国際銀行設立案の発展に就いて	経済史研究	四二	四	
ロリヤの見たる世界恐慌原因	経済論叢	三七・一	六	
信用統制に就いて	〃	三七・二	八	
金の意義に就いて	〃	三七・四	一〇	
中央銀行の発券準備に就いて	〃	三七・五	一一	

	掲載誌	巻号	刊行年月
中央銀行兌換準備檢討（山本博士還歷記念論文集）	経済論叢	三八・一	昭九・一
ブウニヤテイアンと新信用理論	〃	三八・三	三
レスキュウルの長期的景気変動論	〃	三八・四	四
植民地貨幣制度より見たる金為替準備	〃	三九・一	七
金物価と貨幣価値安定	〃	三九・二	八
金為替本位様式の展開に就いて	〃	三九・三	九
世界大戦前に於ける英領印度の金為替本位に就いて	〃	三九・四	一〇
世界大戦前に於ける北米合衆国の金為替本位に就いて	経済史研究	一二・四	一〇
将来の通貨制度	通貨制度研究会報告第一輯		昭一〇・一
フランス・フランに就いて	経済論叢	四〇・一	二
フランス独立償還金庫に就いて	〃	四〇・二	三
ミロオの金なき国際交換決済制に就いて	〃	四〇・三	六
フランスに於ける平価切下論に就いて	〃	四〇・六	七
ベルギー・フランの切下に就いて	〃	四一・一	八
フランス帝国経済会議	〃	四一・二	一〇
日本に於ける金為替本位制の濫觴（上）	〃	四一・四	一一
日本に於ける金為替本位制の濫觴（下）	〃	四一・五	

朝鮮に於ける金為替本位制	〃	四一・六		一二
支那の幣制改革と其の意義	〃	四二・一	昭一一・一	一
フランスに於ける通貨構成変動の意義	〃	四二・四		四
世界大戦前の日本、朝鮮及び満洲の金為替本位制	〃	四三・一		七
北支日系通貨に就いて	〃	四四・一	昭一二・一	
アフタリヨンの貨幣心理説に就いて	〃	四四・五		五
法幣インフレェションに就いて	〃	五一・五	昭一五・一一	
戦争経済に関する一主張	〃	五二・三	昭一六・三	
仏印幣制論	〃	五二・六		六
ポオル・ベルナアルの仏印工業化論	〃	五三・三		九
仏印に於ける信用と其の性格	東亜経済論叢	一・四		一二
仏印国際貸借に関する一考察	経済論叢	五四・一	昭一七・一	
最近仏領印度支那幣制に於ける二つの改革	東亜経済論叢	二・一		三
仏印に於ける信用対策に就いて	経済論叢	五四・五		五
仏印に於ける貯蓄及び資本に就いて	〃	五五・一		七
ガエタン・ピルウの仏印ピヤストル論	日仏文化	新第八輯		七
仏印に於ける協同組合に就いて	東亜経済論叢	二・三		九
最近に於ける仏印経済の再編成に就いて	経済論叢	五五・五		一一

	掲載誌	巻号	刊行年月
再組織下にある最近の仏印経済	東亜経済論叢	二・四	昭一七・一二
最近仏印ピヤストルの動向に就いて	日仏文化	新第九輯	昭一九・四
新金為替本位制から見たポンド切下	国民経済	四・一一	昭二四・一一
インフレーションの一考察	銀行及金融	二	昭二五・一
金の再評価と世界経済	国民経済	五・四	四
最近に於ける世界金問題	銀行及金融	六	六
フランスは金本位に復帰するか	バンキング	二五	七
投資についての一考察	〃	二八	八
所得説と数量説の異同 ―アフタリヨンを中心として―	〃	九八	昭三一・四

③ Articles

On the Quantity Theory of Gold. *Kyoto University Economic Review.* Vol. 9, No. 1. 1934.

An Early History of the Gold Exchange Standard in Japan. *K. U. Eco. Rev.* Vol. 10, No. 2. 1935.

China's Currency Reform and its Significance. *K. U. Eco. Rev.* Vol. 11, No. 1. 1936.

Die Abwertung des japanischen Yen. *Weltwirtschaftliches Archiv.* Januar, 1936.

La genèse d'un étalon monétaire fondé sur le change-or : Le cas du Japon. *Annales d'histoire économique et sociale*, décembre, 1936.

L'origine de l'étalon de change-or en Corée. *Revue économique international*, décembre, 1936.

On Japanese Currencies Circulating in North China. *K. U. Eco. Rev.* Vol. 12, No. 1. 1937.

The Expansion and Consolidation of the Japanese Gold Exchange Standard System. *K. U. Eco. Rev.* Vol. 12, No. 2. 1937.

The Inflation of Chinese Legal Tender. *K. U. Eco. Rev.* Vol. 16, No. 2. 1941.

The Currency System in French Indo-China. *K. U. Eco. Rev.* Vol. 17, No. 2. 1942.

Southern Economy: Its Currency and Financial Problems. *K. U. Eco. Rev.* Vol. 17, No. 4. 1942.

執筆者紹介

高倉新一郎（追悼の言葉）	北海道大学経済学部長
桑原晋	北海道大学教授
大橋隆憲	京都大学助教授
田中生夫	岡山大学助教授
酒井一夫	北海道大学助教授